

「保健医療科学」
第73巻 第5号 予告

特集：歯・口腔の健康づくりプランの方向性とその実現に向けた論点

歯科口腔保健の推進に向けた社会環境の整備……………	福田英輝
「歯・口腔の健康づくりプラン」を支える科学的根拠……………	小坂健
自治体における歯科健診受診率向上の取組 - 東京都港区『お口の健診』15年の軌跡 - ……	二宮博文
ロジックモデルとPDCA サイクルを用いた歯科口腔保健施策を考える……………	相田潤
口腔機能に関わる高齢者歯科保健施策の変遷と今後の課題……………	三浦宏子
国立保健医療科学院における地域歯科保健に携わる人材の育成……………	田野ルミ

編集後記

疾病予防や健康増進、衛生環境の改善のような社会目標を達成するためには政策作りはもちろん、国民の同意と個人の実践が必要である。特に医療・保健衛生分野では、麻疹や子宮頸がん、また昨今の新型コロナに至るまで予防接種をどのように促すか、特殊保健指導や歯科保健などではどのように受診させどのように健康改善へ取り組んでもらえるか、など行政から医療従事者まで長年苦慮してきた。

小さな切っ掛けを与えることで個人の人々の行動を変え、やがては大衆や国民の行動までを変える効率的かつ理想的な手法を打ち出すことはなかなか難しい。その行動科学理論の一つとして有名な「ナッジ (Nudge)」は行政、医療保健、ビジネスなど様々な分野で活用されている。

本特集では、行政、医療福祉、人工知能、経営情報、建築などの専門家から、行動変容に係わるナッジ理論、特定健康診断・特定保健指導における行動変容の評価、歯科保健分野における行動変容の活用事例、確率的アプローチとしてのベイジアンネットワーク、コロナ禍での予防行動のための規範的意思決定の要因を把握するための数理モデル、建築の室内環境における安全と快適性向上、そして省エネルギーのための行動選択などが解説された。

本特集号により行動変容への理解が深まり、政策立案・決定者、行政現場及び保健医療福祉の関係者の努力がより国民に伝わりやすく、また個人の実践に結び付くことを期待する。

(生活環境研究部 金勲)